

5.1 下水道財政の見通し

本市においては、増加する行政需要に対応していく財源を生み出すため、職員定員適正化や施設維持管理の見直しなど、内部管理コストの削減などを進めてきました。また、汚水中継ポンプ場※として機能していた東町ポンプ場と下保谷ポンプ場を施設の老朽化や維持管理費の軽減を踏まえ、自然流下※により流域幹線に接続し、ポンプ場を廃止したことや、企業債の償還が進んだことにより、汚水処理費は使用料収入で賄える状況になりました。

しかしながら、今後の下水道施設の改築・更新の推進などにより、事業が継続可能かを検討する必要があります。

ここでは、第4章で位置付けた施策を対象に、それぞれの概算事業費を算出し、計画の施策を展開した場合における短期・中期・長期の下水道財政を見通します。

【主な建設費】

●計画的な改築・更新の実施

ストックマネジメント計画に基づき下水道管きよ及びマンホールの改築費用を計上

●流域改良負担金

本市負担額を計上

●都市計画道路築造に伴う污水管きよの布設替え

過年度実績を基に平均的な額を計上

●流域下水道建設負担金

過年度の負担金実績を基に平均的な額を計上

●雨水幹線整備

雨水幹線の整備額を計上

※雨水幹線以外の雨水施設の整備は、下水道課が担当しており、費用は一般会計で計上しています。

【主な維持管理費】

●下水道管きよの台帳整備

過年度の実績を基に計上

●下水道管きよの調査

下水道管きよ内の清掃や点検・調査の費用を継続的に計上

●流域下水道維持管理負担金

汚水流入水量の見通しから算出

本市では平成29年度に「西東京市人口推計調査報告書」を作成しました。これによると、本市では令和4年度をピークに人口が減少していく予測となっています。今回の下水道財政の見通しでは「西東京市人口推計調査報告書」に最新の実績を反映させ、将来の行政人口の予測を行いました。この行政人口の予測結果を基に有収水量を算定し、使用料収入の算定に反映させています。

表 5-1 行政人口の見通し

単位：人

	R3	R7	R12	R17	R22	R27	R32
行政人口	205,706	205,087	203,017	200,571	198,740	196,997	195,254

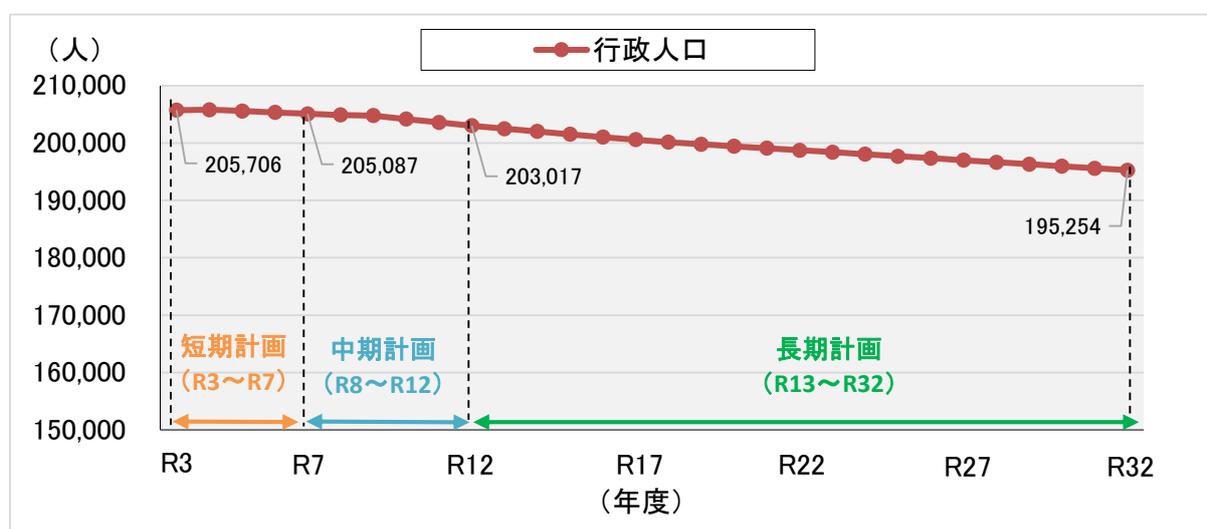


図 5-1 行政人口の見通し

### 5.1.1 収入・支出の見通し

本市下水道事業の収入・支出の見通しを示します。

なお、本市下水道事業は平成31年4月に地方公営企業法を適用し、公営企業会計を採用したことから、今回の下水道事業財政の見通しは、公営企業会計によるものとなります。

これまでの官公庁会計方式では、現金収支に関する経理を行うのみでしたが、公営企業会計では、管理運営に係る取引（収益的収支）と建設改良費などに係る取引（資本的収支）に区分して経理することで、当該事業年度の経営成績を正確に把握できます。公営企業会計では、建物の建設改良のように、支出の効果が数年間にわたって持続するものについては、翌年度以降に減価償却費として、収益的支出<sup>\*</sup>に計上されます。また、減価償却費などの非現金支出に充当される収入は、内部に留保し、資本的支出<sup>\*</sup>に充てられ、補填財源の余剰分は翌年度以降に繰り越されます。

収入・支出の見通しでは、主に以下の項目を計上します。

**【収益的収支】**: 当該事業年度の経営活動に関する収支。(税抜で表記)

(1) 収益的収入<sup>\*</sup>

使用料収入、補助金、繰入金（他会計補助金、雨水処理負担金）、長期前受金戻入、その他収益

(2) 収益的支出

維持管理費（管渠費、総係費）、流域下水道維持管理負担金、減価償却費、支払利息、その他支出

**【資本的収支】**: 支出の効果が数年度にわたって持続するものとその財源。資本的収支の不足額は、補填財源を充てることができる。(税込で表記)

(1) 資本的収入<sup>\*</sup>

補助金、企業債、他会計出資金

(2) 資本的支出

建設改良費（管路建設改良費、他市への負担金、流域下水道建設負担金、ポンプ施設更新など）、企業債償還金

**【補填財源】**: 減価償却費などの非現金支出や利益剰余金などが該当する。資本的収支不足額に充てられる。

＜収益的収支＞

令和3年度から令和32年度までの収益的収入総額は約890億円となっており、そのうち使用料収入は約596億円と全体の約67%を占めます。

収益的支出総額は約837億円となっており、そのうち流域下水道維持管理負担金は約244億円と全体の約29%となります。

また、令和3年度から令和32年度まで、毎年度純利益が生じる見込みです。この純利益に伴う利益剰余金は、今後、多額の建設改良費が必要になることから、その財源に充てるためにも必要となるものです。

表 5-2 収益的収支の見通し

単位:百万円

	短期 (R3~R7)	中期 (R8~R12)	長期 (R13~R32)	合計
収益的収入	15,585	15,820	57,581	88,986
使用料収入	10,056	10,035	39,523	59,614
補助金	85	96	377	558
繰入金 (他会計負担金、雨水処理負担金)	480	865	4,739	6,084
長期前受金戻入	4,947	4,804	12,862	22,613
その他収益	16	20	80	116
収益的支出	14,828	14,942	53,928	83,698
維持管理費	2,595	2,322	8,542	13,459
流域下水道維持管理負担金	4,095	4,095	16,216	24,406
減価償却費	7,635	7,871	25,219	40,725
支払利息	443	589	3,691	4,723
その他支出	59	65	260	384

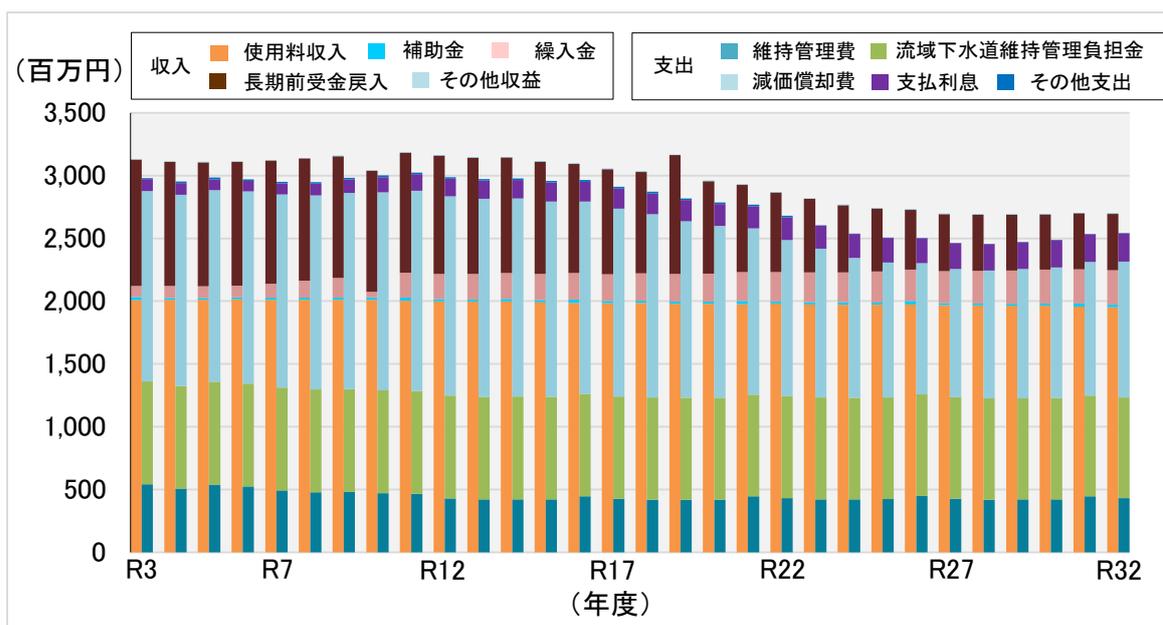


図 5-2 収益的収支の見通し

＜資本的収支＞

令和3年度から令和32年度の資本的収入の総額は約494億円となり、そのうち企業債が約328億円と全体の約66%を占めています。次いで補助金が約155億円、他会計出資金は約10億円となります。

資本的支出総額は約667億円となり、建設改良費が約504億円と全体の約76%を占めます。

本市下水道事業では令和32年度までに約173億円の資本的収支不足額が見込まれますが、不足分については補填財源を充当します。

表 5-3 資本的収支の見通し

単位:百万円

	短期 (R3~R7)	中期 (R8~R12)	長期 (R13~R32)	合計
資本的収入	3,916	10,749	34,701	49,366
補助金	198	3,038	12,293	15,529
企業債	3,582	7,540	21,688	32,810
他会計出資金	136	171	720	1,027
資本的支出	6,061	12,865	47,745	66,671
建設改良費	4,022	10,953	35,442	50,417
企業債償還金	2,038	1,912	12,303	16,253
資本的収支不足額	2,145	2,116	13,044	17,305

※資本的収支不足額:資本的支出に対する資本的収入の不足額

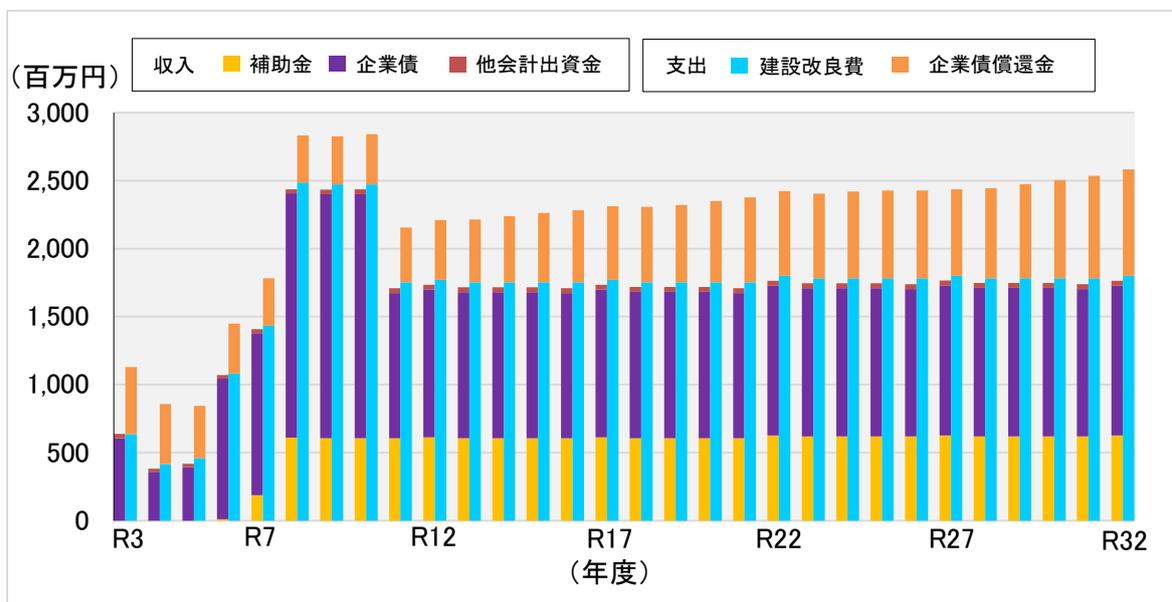


図 5-3 資本的収支の見通し

5.1.2 建設事業費の見通し

＜建設事業費＞

令和3年度から令和32年度までの建設事業費の総額は約504億円となり、そのうちの約86%にあたる約433億円が管路建設改良費です。

その他に流域下水道建設負担金は、建設事業費の総額のうち約12%にあたる約61億円となる見通しです。

また、令和6年度から令和10年度にかけて白子川上流第二排水区関連の雨水幹線を整備予定であるため、他の年度に比べ事業費が大きくなっています。

表 5-4 建設事業費の見通し

単位:百万円

	短期 (R3~R7)	中期 (R8~R12)	長期 (R13~R32)	合計
管路建設改良費	2,676	9,778	30,802	43,256
汚水	846	5,768	23,072	29,686
雨水	1,830	4,010	7,730	13,570
他市への負担金(雨水)	126	0	0	126
流域下水道建設負担金(汚水)	1,085	995	3,980	6,060
ポンプ施設更新	31	15	0	46
汚水	31	5	0	36
雨水	0	10	0	10
事務費等	104	165	660	929
合計	4,022	10,953	35,442	50,417

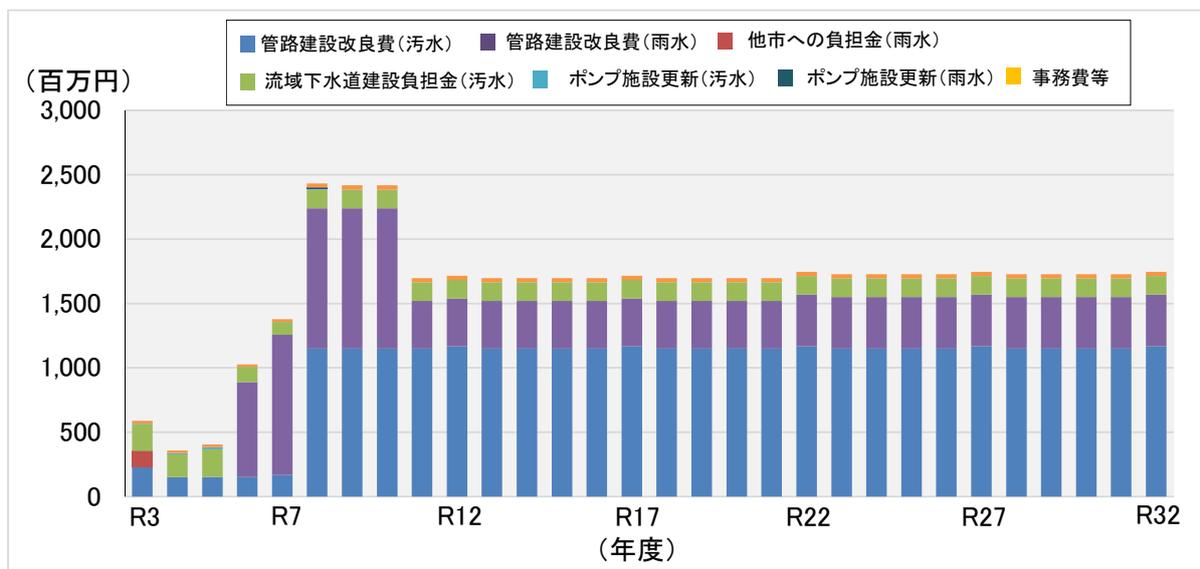


図 5-4 建設事業費の見通し

＜建設費の財源＞

令和3年度から令和32年度までの建設費約504億円の財源は、補助金が約155億円で約31%、企業債が約328億円で約65%となり、この2項目で約96%を占めます。

令和8年度からストックマネジメント計画に基づき改築・更新工事を実施予定であるため、補助金と企業債の金額が増大しています。

表 5-5 建設財源の見通し

単位:百万円

	短期 (R3~R7)	中期 (R8~R12)	長期 (R13~R32)	合計
補助金	198	3,038	12,293	15,529
企業債	3,582	7,540	21,688	32,810
補填財源	242	375	1,461	2,078
合計	4,022	10,953	35,442	50,417

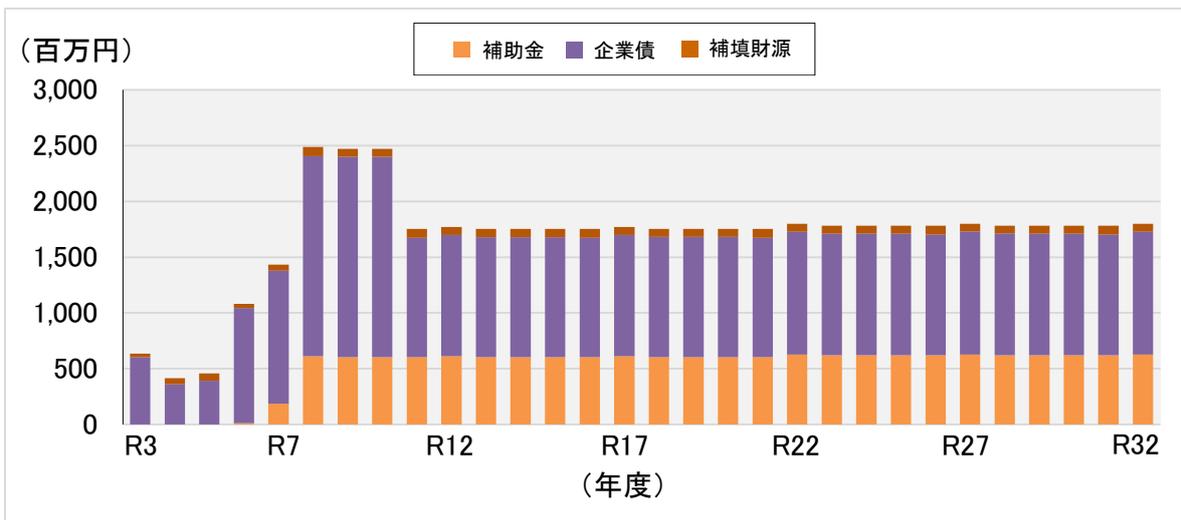


図 5-5 建設財源の見通し

### 5.1.3 維持管理費の見通し

令和3年度から令和32年度までの維持管理費の総額は約379億円となる見込みであり、そのうち流域下水道維持管理負担金は約244億円と約64%を占めています。

表 5-6 維持管理費の見通し

単位:百万円

	短期 (R3~R7)	中期 (R8~R12)	長期 (R13~R32)	合計
維持管理費	2,595	2,322	8,542	13,459
汚水	2,590	2,317	8,522	13,429
雨水	5	5	20	30
流域下水道維持管理負担金(汚水)	4,095	4,095	16,216	24,406
合 計	6,691	6,417	24,758	37,866

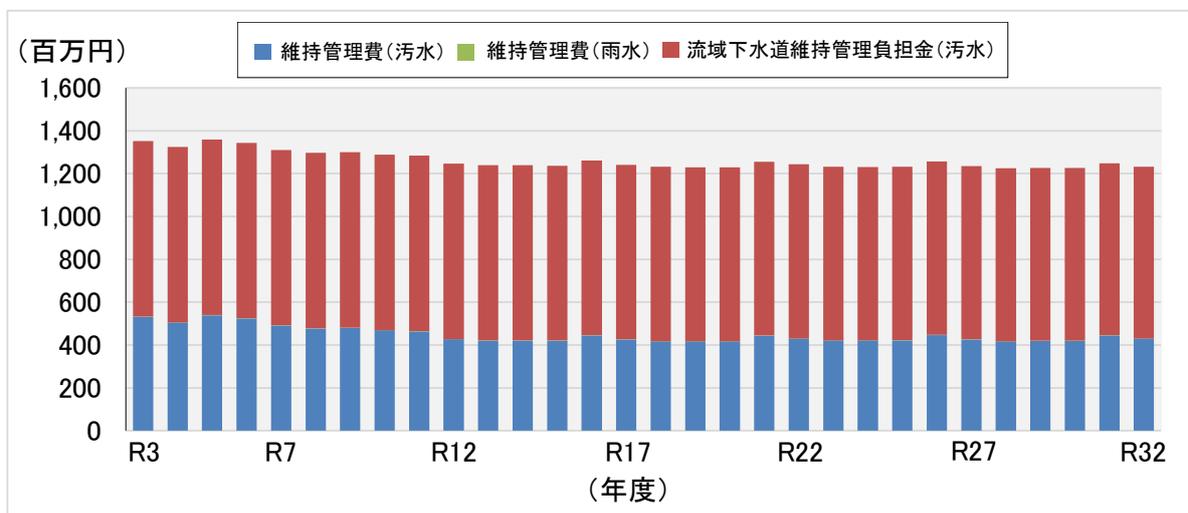


図 5-6 維持管理費の見通し

### 5.1.4 企業債元金償還金の見通し

令和3年度から令和32年度までの企業債元金償還金総額は約163億円となる見込みです。

単年度の企業債元金償還金は、令和3年度は約5億円となっており、令和8年度にかけて減少しますが、その後増加に転じ、令和32年度では約8億円となる見込みです。

表 5-7 企業債元金償還金の見通し

単位:百万円

	短期 (R3~R7)	中期 (R8~R12)	長期 (R13~R32)	合計
企業債元金償還金	2,038	1,912	12,303	16,253
汚水	1,744	1,423	8,724	11,891
雨水	294	489	3,579	4,362

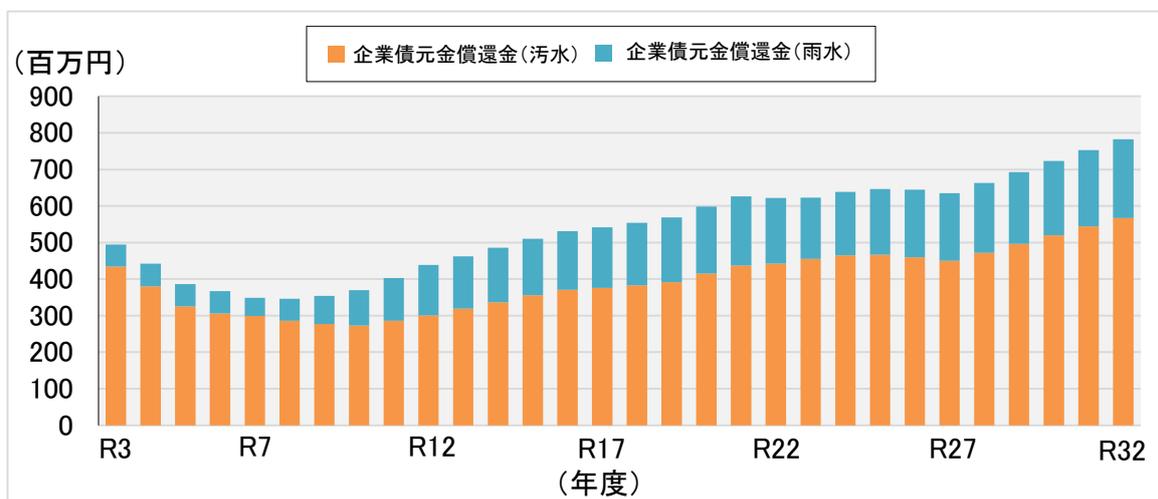


図 5-7 企業債元金償還金の見通し

### 5.1.5 一般会計繰入金の見通し

企業会計における一般会計繰入金は、収益的収入の基準内繰入金・基準外繰入金及び資本的収入の基準内繰入金・基準外繰入金に区分されます。対象となる項目を以下に示します。

＜一般会計繰入金該当項目＞	
①収益的収入	
基準内繰入金	雨水処理負担金、他会計補助金の公費※負担分
基準外繰入金	収益的収支不足分
②資本的収入	
基準内繰入金	出資金として企業債元金償還金のうち公費負担分に充てた繰入金
基準外繰入金	建設事業分、企業債元金償還に充てた繰入金

令和3年度から令和32年度の繰入金総額は約71億円となる見込みです。

令和3年度の収益的収入の基準内繰入金は約9,000万円となる見込みであり、今後は減価償却費及び企業債利息の雨水分が増加するため、基準内繰入金の増加が見込まれます。

令和3年度の資本的収入の基準内繰入金は約3,000万円となる見込みであり、今後は概ね横ばいとなる見込みです。

基準外繰入金については発生しない見込みです。

表 5-8 一般会計繰入金の見通し

単位:百万円

	短期 (R3~R7)	中期 (R8~R12)	長期 (R13~R32)	合計
収益的収入	480	865	4,739	6,084
基準内繰入金	480	865	4,739	6,084
基準外繰入金	0	0	0	0
資本的収入	136	171	720	1,027
基準内繰入金	136	171	720	1,027
基準外繰入金	0	0	0	0
合計	616	1,036	5,459	7,111

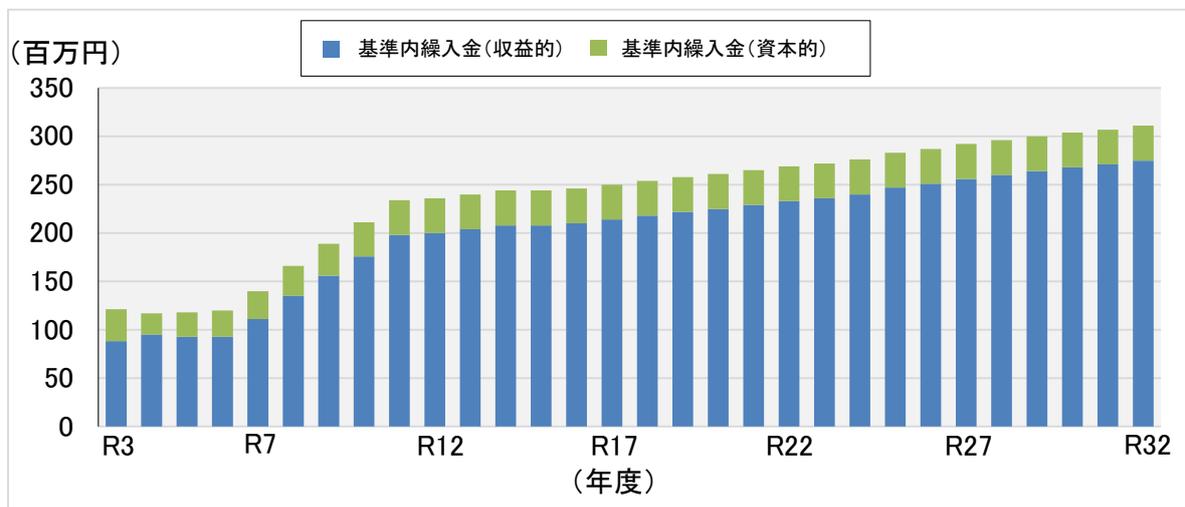


図 5-8 一般会計繰入金の見通し

### 5.1.6 経営指標について

#### <経費回収率>

令和3年度の経費回収率は110%であり、計画期間内での経費回収率は多少の増減はありますが、概ね横ばい傾向となる見込みです。

しかし、令和32年度以降は減価償却費の増加が見込まれることから、汚水処理費が増加し、経費回収率の低下が想定されます。

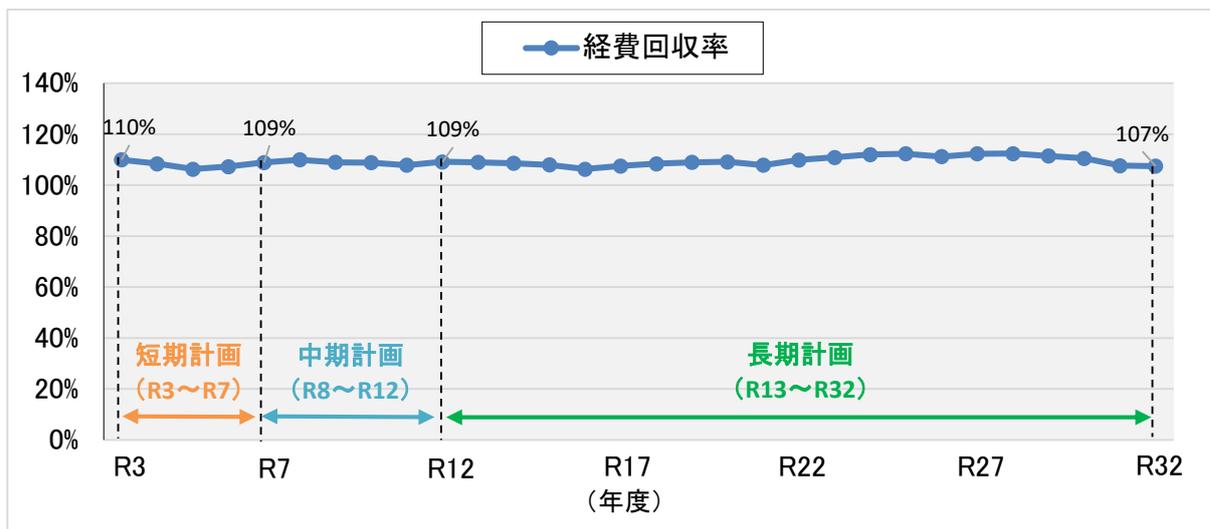


図 5-9 経費回収率の見通し

#### <企業債残高>

本市の企業債残高は令和3年度末では約65億円であり、令和5年度にかけて減少することが予想されます。令和6年度以降は企業債の起債額が増加するのに対して償還額が少ないため、企業債残高は増加し、令和32年度では約229億円となる見込みです。

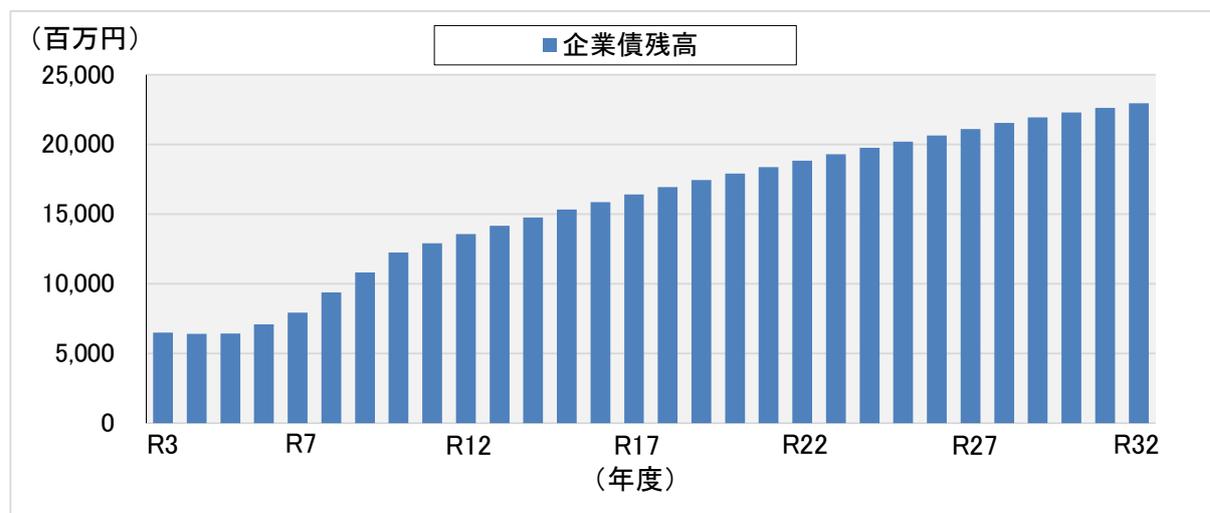


図 5-10 企業債残高の見通し

#### 5.1.7 今後の下水道経営に向けて

本市の下水道事業の汚水処理費は、現在使用料収入で賄えています。

将来の経営状況においても経費回収率は100%を超える見込みであり、資金面においても資金不足は発生しませんが、令和32年度以降は企業債元金償還金や減価償却費の増加が見込まれることから、経営の負担となることが見込まれます。

そのため、コスト縮減に努め、健全経営を継続していくことが求められます。

● 5.2 健全な下水道経営

5.2.1 経営の健全化

【⑦目標】

計画的かつ効率的な事業経営により経営基盤を強化し、  
持続可能な下水道サービスを提供し続けます。

厳しい経営環境のもとで、中長期的な視点に立って各施策を効果的に展開する必要があります。このため、建設コストの縮減や下水道使用料の適正化などを行い、経費の節減と合理化を図り、経営効率化に取り組みます。

◆ 施策の展開 ◆

● 改築・更新費用の平準化

下水道事業では保有する膨大な施設を将来にわたって安定的に持続させる必要があります。今後は、施設の改築・更新時期の到来により多額の費用が見込まれます。そのために中長期的な視点で下水道施設全体の老朽化状況を考慮し、計画的に改築・更新を実施することで投資の平準化を図ります。

● 職員数の適正化

今後は、下水道施設の老朽化対策に本格的に着手することから、事業を迅速に推進するために、適正な職員数の確保に努めます。

● 経営指標を用いた事業運営

今後は、安定した下水道経営を図るために、経費回収率や企業債残高などの各種経営指標を用いて、下水道事業の経営状況を定量的に把握するとともに、その改善のための施策を検討することにより、下水道経営の健全化に取り組みます。

5.2.2 姿の見える下水道

【⑧目標】

積極的に情報開示を行い、市民にわかりやすい  
下水道事業を目指します。

下水道事業の経営の健全化・効率化による経営基盤の強化を図るためには、市民の理解と協力を得ながら進めることが重要です。市報やホームページなどを通じて、市民にわかりやすい情報提供を行い、“姿の見える下水道”を目指します。

◆ 施策の展開 ◆

●市報、ホームページなどを活用した情報提供の充実

本市では、市報やホームページを通して、わかりやすい情報を提供し、下水道に対する市民の理解の向上を図ります。

The screenshot shows the Nishitokyo City Official Website. The main content area features a news article titled "新型コロナウイルスの感染拡大に伴う下水道料金等のお支払い猶予について (猶予の受付を再開いたします)". The article text states that due to the impact of the COVID-19 pandemic, the city has resumed accepting applications for payment suspensions on sewerage fees. It specifies that the suspension period is up to 1 year from the date of application, and that those who have already received a suspension do not need to re-apply.

On the right side of the page, there is a sidebar with several quick links: "人生のイベントからさがす", "地図から施設をさがす", "市の組織から情報をさがす", and "新型コロナウイルス感染症に関する支援などの情報".